

黒豚ミート・花園パーク

埼玉県深谷市

<http://www.hanazonokurobuta.com/>



店舗概要

創業年 1976年(昭和51年)
売場面積 150.15㎡(45.5坪)
従業員 3人
営業時間 9:00~18:00
定休日 火曜日
売上高 46,272(千円)

商品構成

精肉 40.0%
味噌漬け 20.0%
惣菜(コロッケ・豚カツ) 30.0%
加工品(ハム・リゼット) 10.0%

経営方針

先代から受け継がれ100年、飼育管理の統一を図り、又カヤサツマイモなど古くからの黒豚専用飼料を使い、おしみなく時間をかけて大切に育てた黒豚を販売

歴史のある黒豚及びその製品を製造販売し、地元客や観光客に人気

[歴史のある花園黒豚を販売して他店と差別化]

当店は、埼玉県深谷市黒田に所在する精肉店、本店のほか道の駅にも出店している。店舗名にある「花園」は、旧町名大里郡花園町に由来する。

当店の特徴は、何よりもその扱う豚肉が、原産国イギリスでも日本国内でも世界的に希少となった中型種で、イギリス産のパークシャー種の黒豚であることであり、その歴史は100年以上に及ぶ。即ち、当店の実質的な代表である笠原春次氏の3代前の笠原五郎吉氏が、明治29年その畜糞から堆肥を得るために東京府下滝野川の養豚場から英国産パークシャー種を種豚として譲り受け、飼育を始めたことに由来する。

その後、大正3年埼玉県委託種豚場に指定され、本格的な養豚事業を始めると同時に、畜産を取り入れた有畜農業を地域で推進した。終戦後昭和20年代から40年代にかけて黒豚養豚の業績が評価され、各種の賞を受賞した。昭和51年に生産部門から分かれて卸・小売り部門の「黒豚ミート・花園パーク」を開設。以後首都圏からのゴルフ客や観光客から高級黒豚として評判になっていたという。

昭和 58 年には三越日本橋本店との取引が始まった。現在の黒豚の生産体制は、JA 全農さいたまが、「彩の国黒豚」としてブランド化するために、埼玉県「彩の国黒豚倶楽部」として 6 軒の生産農家が生産した黒豚を一括して食肉処理し、流通させている。当店は、その出荷頭数 5,000 頭のうち 500 頭を扱っているとのこと。

黒豚は、普通の豚に比べて飼育期間が長く生産効率も悪いが、花園黒豚は肉質に定評のある英国系純粋パークシャー種に、サツマイモや麦を加えた低タンパク・低カロリーの専用飼料を与えてじっくりと育てることから、きめ細かな歯切れの良い肉とうまみ成分に富み、風味がまろやかな肉として高い評価を得ている。価格は、通常の豚肉の 2 倍ほど高いが、味がよく、その良さを知ってもらおうと、宣伝を兼ねて J リーグ「大宮アルディージャ」の試合がある日にサッカースタジアム NACK5 で(株)秩鉄商事と連携し、花園黒豚メンチ(250 円・1 個)や花園ホルモン焼き(400 円/1 パック)を販売しており、年 1 回ある人気投票では毎年トップ 5 の位置にある。



[店舗施設や販売促進のための工夫]

平成 23 年に店内を改装し清潔さをアピール。

店舗外観はロードサイド(国道 140 号)にあるため、「はなぞの」と黒豚のイラストを大きく掲げ、一目で分かるように電光掲示板を設置している。ただし、ガラス戸に反射材がコーティングされミラー状になっているため、外から店内の様子は見ることができない。

店内の冷蔵ケースには精肉は置かず、鮮度を保ちより良い味で提供できるように来店者からの注文を受けてからスライスして引き渡すようにしている。

来店客は 1 日 30 人程度と少なく、取扱量も多くはないため、また職人としてのこだわりからそのような販売方法を採用している。



精肉以外に、ギフトとして人気なのが黒豚の味噌漬けで、予約注文を基本として日本全国から注文がある。また前述のとおり大宮アルディージャの試合での販売をし、また加工品としてハム、ソーセージ、ベーコン、コロッケ、メンチカツ、ホルモン、カレー(源流花園黒豚カレー)などを製造販売している。

販路拡大のため、ホームページでインターネット販売を手掛け、創業以来の顧客名簿に基づいて通信販売も実施している。

商工会の金融、税務、労務の支援を受け、税務会計は記帳機械化システムを利用し財務の把握を行っている。

【店舗立地】

店舗は、埼玉県内国道 140 号沿いの深谷市黒田(旧大里郡花園町黒田)に所在し、秩父鉄道「永田駅」より徒歩 15 分、関越自動車道「花園インターチェンジ」より車で 5 分。

商圈としての深谷市は、人口約 14 万人、5 万世帯、道の駅「はなぞの」にも出店しているため、地元固定客のほか、観光や評判を聞いて立ち寄る客もあるとのこと。

競合店は、1km 以内に精肉店 3 店とスーパーが 4 店ある。

【店舗実績】



実質的な経営者(笠原春次氏)は、昭和 16 年花園黒豚の 3 代目目として生まれる。

地元スーパーの精肉部門で勤務の後、昭和 51 年に花園黒豚の卸・小売部門として「黒豚ミート・花園パーク」を開店。後継者は、現代表笠原稔精氏 44 歳。

経営は、家族 3 人による家族経営で、家族全員で製造・販売・経理に関わっている。

経営者の笠原春次さん
